

『図解 武蔵野の水路』26 頁の「図4-5 江戸の6 上水概念図」および『江戸の川・復活』79 頁の「図2-14 元禄時代の江戸の6 上水概念図」につきまして、著者による無断加筆および図のタイトルが原図の趣旨にそぐわないとして、原図著作権者の使用許諾を得ることが出来ませんでした。つきましては下記のように図の差し替えをいたします。
次頁以降のPDF ファイルをダウンロードの上ご使用ください。
差し替え以前の図の転載はなさらぬようお願いいたします。
原図著作権者ならびに読者には多大なご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。

『図解 武蔵野の水路』

対象：2009 年 5 月 30 日以前にご購入いただいた方。

対象頁：『図解 武蔵野の水路』 26 頁

『江戸の川・復活』

対象：2009 年 5 月 30 日以前にご購入いただいた方。

対象頁：『江戸の川・復活』 79 頁

東京タワーあたりの台地へは三田上水、そして湯島聖堂の台地や下谷、浅草の低地には千川上水が通水されていた。

これらの上水は、飲用水としてはもちろんのこと、防火用水としても大きな役目を果たしていた。

上水（板樋）の水を汲みあげる井戸は、人々の生命に直接かわる重要な場所であったからいろいろな言い伝えや俗習があった。

また、井戸端でくりひろげられる町民の姿は絵図となってその当時を想いおこさせてくれる。

—— 玉の水 井戸端会議 華が咲く ——（筆者作）

「風俗画報」（216号・明治33年9月号）には、‘井戸端会議’のことがでている。

裏町へんの長屋の井戸端には、住人が朝、口をすすぐにも、米をとぐにも、洗濯するにも、みなここへきてやるのだから賑やかなことだった。とくに、洗濯などで井戸端に集まる女房たちのしゃべりまくる話しぶりは全くすごいもので、いずれも口数の多い女房たちがそそくれ髪して、朝晩となく井戸端で顔を合せるのだから、それからそれと話のタネがつきない。背中に負っている赤ん坊が火のつくように泣きだしても一向お構いなしで、一日中ここで長話して隣近所の噂話などに花を咲かせる。

なんと活気に満ちた水辺空間ではなからうか。

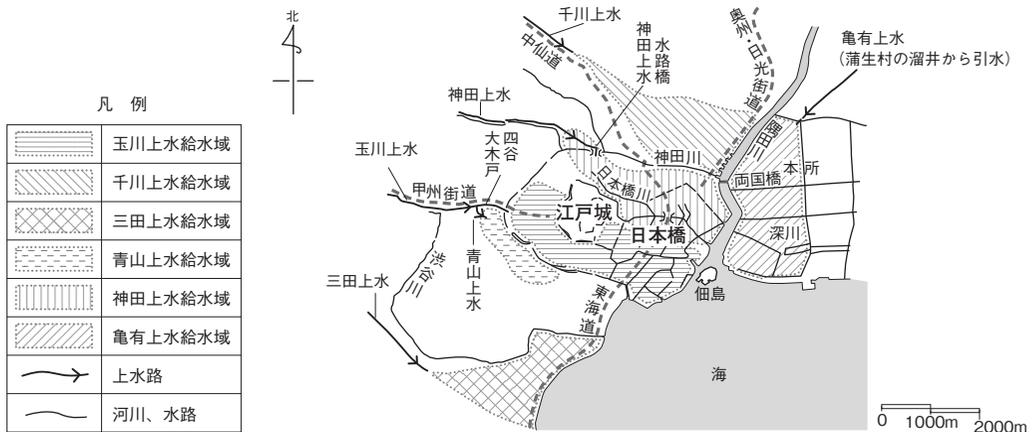


図 4-5 元禄年間（1688～1704）ごろの江戸の6上水とその給水域



凡例

	玉川上水給水域
	千川上水給水域
	三田上水給水域
	青山上水給水域
	神田上水給水域
	亀有上水給水域
	上水路
	河川、水路

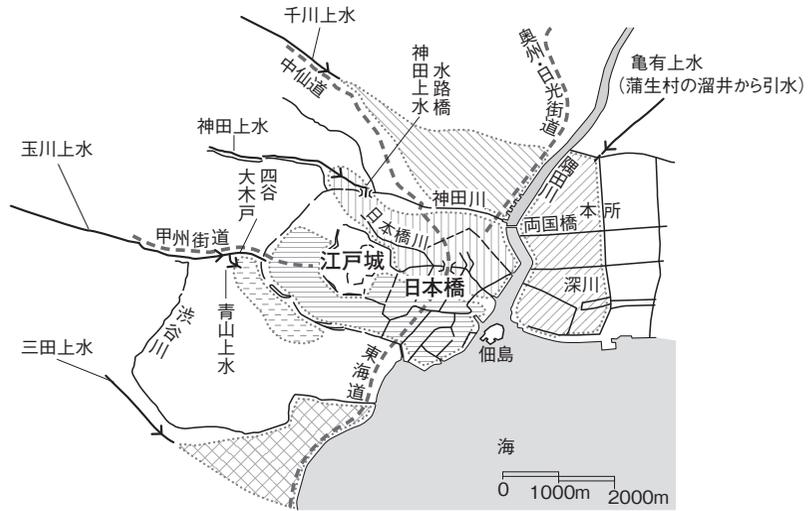


図2-14 元禄年間(1688~1704)ごろの江戸の6上水とその給水域



図2-16 色気に満ちた町中の「井戸端会議」の様子(明治時代後半)



図2-15 鈴木春信「縁方の涼(納涼美人・若者)」

東京国立博物館蔵

Image:TNM Image Archives Source:<http://TnmArchives.jp/>